資料１－３

第５４回本部員会議
令和４年４月８日
保健福祉部

新型コロナウイルス感染症患者に係るゲノム解析結果について

１　ゲノム解析結果

３月28日から４月２日に公表した新型コロナウイルス感染症事例のうち12件についてゲノム解析した結果、６件のオミクロン株(BA.2)が確認されました。

実施時期	総件数(件)	解析結果　(※)						摘　要
		ｱﾙﾌｧ株	ﾃﾞﾙﾀ株	ｵﾐｸﾛﾝ株(BA.1)	ｵﾐｸﾛﾝ株(BA.2)	その他	解析不能	
令和３年12月	3			3				令和３年12月公表分検体
令和４年１月	67		7	52	1		7	令和４年１月公表分検体
２月	48			47			1	令和４年１～２月公表分検体
３月	36		1	35				令和４年２～３月公表分検体
４月①	12			5	6		1	令和４年３～４月公表分検体
計	166	0	8	142	7	0	9	

※　ゲノム解析は、新型コロナウイルス感染症と確認された事例について実施するが、検査可能数が限られる。概ね５日前後で結果が判明する。

※　令和４年１月に確認されたオミクロン株（BA.2）は、海外からの帰国者の事例であり、県内での感染拡大は認められなかったもの。

２　今後の対応

環境保健研究センターにおいては、12～24件／週のゲノム解析を継続して実施します。

＜参考：オミクロン株（BA.2系統）の特徴に関する知見＞

海外の一部地域ではBA.２系統による感染が拡大している。国内におけるオミクロン株は、当初BA.１とBA.１.１の海外からの流入がともにあったものの、その後BA.１.１が多数を占めるに至り、現在も主流となっているが、BA.２系統も検疫や国内で検出されており、現在、BA.２系統への置き換わりが進んでいる。このため、今後、感染者数の増加（減少）速度に影響を与える可能性がある。なお、BA.２系統はBA.１系統との比較において、実効再生産数及び二次感染リスク等の分析から、感染性がより高いことが示されている。BA.２系統の世代時間は、BA.１系統と比べ15%短く、実効再生産数は26%高いことが示された。BA.１系統とBA.２系統との重症度の比較については、動物実験でBA.２系統の方が病原性が高い可能性を示唆するデータもあるが、実際の入院リスク及び重症化リスクに関する差は見られないとも報告されている。また、英国の報告では、ワクチンの予防効果にも差がないことが示されている。英国の報告では、BA.１系統ウイルス感染後におけるBA.２系統ウイルスに再感染した事例は少数あり、主にワクチン未接種者であると報告されている。

〔79回（令和４年４月６日）新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 資料１より抜粋〕